

イザベラ・スチュワート・ガードナーと彼女の美術館について

「ずっと前から、この国に最も必要なのは、芸術だと考えていました。私に何かできたらと、それを自分のライフワークにすることを決意したのです。」 イザベラ・スチュワート・ガードナー、1917



イザベラ・ガードナー、1888

アメリカで最も活躍した女性の一人、イザベラ・ガードナーは、芸術に対して、スポーツ（特にボストン・レッドソックスの野球とハーバード大学のフットボール）、園芸、音楽へとほとんど同じくらい情熱を傾けた。また生涯を通じて、教会（ビーコン・ヒルにあるアドベンティスト派教会）やボストンにおけるコミュニティ活動にも積極的に参加した。そして何よりも特記すべきなのは、イザベラ・ガードナーが、最も素晴らしい個人收藏の美術品コレクションのひとつであるイザベラ・スチュワート・ガードナー美術館の先見の明ある創設者だったことである。

はじめに

イザベラ・スチュワート・ガードナーは、1840年4月14日にニューヨーク市で生まれた。彼女の父、デービッド・スチュワートは、アイルランドとの亜麻糸の貿易、その後は中西部の銅山への投資で富を築いた。ニューヨークとパリで教育を受けたイザベラは、学友だったジュリア・ガードナーの兄、ジョン・ローウェル・ガードナー・ジュニア（通称「ジャック」）と

1860年に結婚した。ボストンがジャックの出身地であったことから、ガードナー夫妻は、イザベラの父から結婚祝いとして贈られたビーコン通り152番地の家を住まいとして構えることとなった。イザベラは1863年に、息子ジョンを授かったものの2歳の誕生日を迎える矢先に、その息子を亡くした。それ以後、ガードナー夫妻は子供に恵まれることがなかったが、妻に先立たれたジャックの兄が自殺を遂げたため、残された3人の甥を育て上げた。



イザベラ・ガードナーと gondola の船頭、ベニスのパルバ
口郵便局の前にて、1894

1870年代以降、ガードナー夫妻は、ヨーロッパやアジアを旅し、外国文化に触れ、世界的視野を広げていった。イザベラが好んだ行き先は、イタリア、ベニスだった。このベニスへの愛情が、彼女の美術館の設計に影響を与えたとされる。

美術館の創立

1891年に父が他界すると、イザベラ・ガードナーは1億6千万ドルという大金を相続した。ガードナー夫妻は共に、それを美術品に費やすことに賛成だった。若き研究者であったバーナード・ベレンソンの助言を得て、まずイタリア・ルネッサンス、そして後にはスペイン美術が、彼女にとって関心の的だった。レンブラントやティ

ツィアーノなどの重要な絵画を購入した1896年は、ガードナー夫妻の収集における転換期となる。所有するコレクションが、美術館レベルの質であることに気がついた二人は、それらを所蔵するための新しい建物の建設計画を立て始めた。不幸にも1898年12月に、ジャック・ガードナーを亡くしたが、イザベラの意志はそがれることなく、むしろプロジェクトに新たなエネルギーを注いだ。彼女はフェンウェイ(当時は完全な空地)に土地を購入し、建築家を雇った。美術館の建設は、1899年6月に着工され、1901年後半に完成した。そしてその翌年、彼女は美術館における作品陳列に取り組み、1903年元旦、フェンウェイ・コート(彼女の生前における美術館の名称)を開館した。

開館後も、ガードナー夫人は次々に新しい美術品を購入し、部屋の配置換えを行っていった。1914年までには、展示品が増えすぎたため、建物の東翼全体を建て替え、新たに複数のギャラリーを追加した。1919年に最初の発作に襲われてから、病を患っていたイザベラ・スチュワート・ガードナーは、その5年後の1924年7月に息を引き取り、現在までケンブリッジにあるマウント・オーボーン墓地に永眠する。

語り継がれる遺産

イザベラ・ガードナーは、美術館に1億2千万ドルを寄贈し、彼女が決めた美術品の配置を永久に変えてはならないことを遺言で求めている。彼女が定めた想像力豊かな配置は、観覧者に対して、観察、思考、さらに見る者と作品間との関係を構築するように促す一つまりギャラリー自体が、一種の作品のように機能しているのである。

ガードナー夫人はかつて、画家、作家、音楽家から成る活動的なコミュニティを美術館に招き入れることも行っていた。この伝統を守るべく、ガードナー美術館は今日も、世界基準のコンサートを開催したり、現代画家、演奏家、作家などを対象とし美術館内で活動の機会を与える革新的なアーティスト・イン・レジデンス・プログラムを実施している。